

海田町まちづくり推進委員会 議事録(要旨)

開催日時	令和3年11月15日(月) 15:30～17:00
開催場所	海田町役場 3階会議室
出席者等	<委員> (敬称略) 池 本 良 教 (広島国際学院大学情報文化学部 教授) …委員長 林 孝 (海田町教育委員会委員) 山 岡 崇 義 (海田町自治会連合会 会長) 川 上 一 望 (海田町公衆衛生推進協議会 会長) 中 神 裕 子 (海田町子ども・子育て会議 前会長) 吉 田 栄 二 ((株)シーエル広島 代表取締役) 向 井 ちほみ (広島県デジタルトランスフォーメーション戦略総括官) 天 野 博 司 (広島市立大学 理事・事務局長) 塚 田 邦 人 (広島銀行海田支店 支店長) 国 光 かよこ (ラジオパーソナリティ, 地域番組出演) <事務局等> 西 田 祐 三 (海田町長) 今 岡 寛 之 (副町長) 佐々木 智 彦 (教育長) 鶴 岡 靖 三 (企画部長) 丹 羽 勤 (総務部長) 森 川 雅 枝 (福祉保健部長) 久保田 誠 司 (建設部長) 森 山 真 文 (教育次長) 藤 原 靖 (企画課長) 森 あゆみ (企画課係長) 古 谷 旭 (企画課主任)
会議次第及び資料	【会議次第】 1 開会 (1) 町長あいさつ (2) 委員紹介 (3) 委員長選任 2 議事 第4次海田町総合計画及び海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について 3 閉会 【資料】 第4次海田町総合計画及び海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

会 議 記 録	
事務局	1 開会 定刻になりましたので、令和3年度第1回海田町まちづくり推進委員会を開会します。それでは開会にあたりまして、町長からご挨拶を申し上げます。
町長	(町長あいさつ)
事務局	本日は第1回の委員会ということで、皆様のお手元の次第にお示ししております、委員長の選任までを事務局で進めさせていただきます。 (委員紹介) それでは早速ですが、委員長の選任に入りたいと思います。海田町まちづくり推進委員会要綱、第4条第1項におきまして、委員長の互選ということになっておりますので、委員長の互選をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。
山岡委員	池本先生に委員長をお願いしたいと思います。
事務局	ただいま委員長に、池本委員という推薦がありましたが、いかがでしょうか。 (委員の方々から拍手あり。) それでは委員長には、池本委員に就任いただくことになりました。よろしくお願いいたします。委員長には、席の移動をお願いいたします。それでは委員長には、以後の進行をお願いいたします。
池本委員長	ただいま委員長に就任させていただきました、池本でございます。昨年度、ここまでのいくつかの会合を受けて、新しい総合計画が立っているわけですけど、ここにご出席の各委員の皆様方の多大なるご協力をいただいた成果だと考えております。委員長として今後このまちづくり推進委員会を円滑に進めて参りたいと思っていますので、どうぞご協力をよろしくお願いいたします。それでは早速、議事に入りたいと思います。本日の議事は、第4次海田町総合計画及び海田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について、ということであります。後ほど事務局から総合計画と総合戦略についての説明が大きくありますけど、本日は資料にある意見交換項目によって施策や事業のアイデアについての意見交換を中心に行っていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。事務局から、説明をお願いしたいと思います。
事務局	(資料の説明)
池本委員長	説明ありがとうございました。事務局から総合計画等の検証についての説明がありました。それを踏まえて、ご出席されている皆様方、これからの意見交換ということで、それぞれの分野の立場で、活発なご意見をいただきたいところですけど、事務局の説明にもありましたけれども、海田町の人口は令和2年度の目標人口を何とか上回って、二つの増加傾向で現状推移している状況にあるという。しかしながら全国的には人口減少が進んでおりますし、海田町においても、将来的には人口減少していくということが、想定されております。本日、資料の2ページにあります人口減少の方向、見込まれる人口減少の対策として、施策や事業の色々なアイデア、こういったことについて中心に、ご意見を賜りたいと思っています。早速、意見交換ということで、進めていきたいと思いますが、どんなからでもご発言をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。 大きな課題といたしますか、これまでの施策を評価するということでもありますし、まあその上で、どのような課題が残されているか、という二つのテーマとっておりますがそれが非常に大きい、広いところにあるわけですけど、いかがでしょうか。
吉田委員	はい。商工会の者が事業者の立場から、今コロナの影響でとにかく事業者がひっ迫しております。特に飲食関係ですね、それから、工業関係もこれはマツダ関係もかなり経営がひっ迫しとるんでございます。その中で商工会としては、とにかく今、小規模事業者の支援計画で創業支援をしております。そんな中でとにかく、人口を減らさないために、廃業を食い止める。それと、新しく地域事業の推し進めをしております。その中で海田町に人

	口が少しでも流れてくるように、で、今マンションが建っておりますが、この中で雇用も増やしていかないといけないと思うんですね。商工会として、どうしたらいいか、とにかく廃業を止めて、新しい雇用を生み出す。新しい、新規事業を生み出して、雇用を生み出していくことを、商工会としては、取組んでいます。まあそんな中で、国からも町からも色々な支援を受けておりますんでね、もうちょっとしっかりした支援にして欲しいなと思っております。まあそんな状況です。
池本委員長	ありがとうございます。商工会の立場ということで、新しい対応、取組を始めたということでしょうか。
吉田委員	町からの支援もいただきたいというふうに思っております。
池本委員長	吉田議員の発言に何か関連する質問ですとか、事務局から何かございますでしょうか。
企画部長	はい。商工振興の担当をしております、企画部長の鶴岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。この度のコロナ禍でですね、その影響を受けた事業者さんも多くございます。逆に、こういうところで業績を上げられたところもあるかと思います。そうした中で、影響を受けた事業者のみなさんには、国・県・町それぞれが、様々な制度、救済制度のほうを設けておりまして、それらを活用しながらなんとか、この厳しい状況を乗り越えていただけたらと思っているんですけども、まず私たちの感覚としては、色んな制度があっても、それをどのように活用されるかというところが、一番厳しいところなんじゃないかなと思います。そういった面では、商工会さんとは、日頃から連携のほうをさせていただいております、まあ商工会さんのほうに相談に行くと、こういう制度があるよ、とかそういったものを紹介をさせていただいているという状況でございます。で、まあ例えば、町はですね、事業継続応援金みたいな町独自の制度を設けておりますけれども、そういった申請をしていただくにあたってでもですね、色々と書類を出していただく必要があるんですけども、そうした中で、商工会さんが申請の手続きを援助していただく。こういったことが非常に助かっていること、この度の町の応援金に申請できるなら県のこういった制度も活用できるよ、とかですね、国の制度もこういうのがあるよといったのを、あわせて紹介をさせていただくというところで、商工会に加入されている個人事業主さんとかは、ずいぶん助かっているんじゃないかなというふうに思います。 今後もコロナ禍の救済といいますか支援制度も県としてもありますし、まあコロナ収束後はですね、また引き続き魅力発信といったような施策も、町としては取組んでいきたいと思っております。町としても、周知に取組んで参りますが、やはり、町だけというよりはですね、商工会さんとかにもですね、協力をいただいて、色々な形で情報発信をしながら、色々取り組んで参ります。施策をですね、活用して、海田町が活性化するようになっていければと思っております。また引き続きよろしくお願いいたします。
吉田委員	ありがとうございます。
池本委員長	昨日から今日にかけてニュースでも報道されているんですけど、今期の国内総生産が年率でマイナス3%低下したということで、いわゆるこの在宅の需要が、引きこもり需要が一周した。まあ長い、2年に及ぶコロナ禍というものもあって、生活者、町民のみなさんのですね、経済力ですね。給料が下がっているというふうに。そういった点で雇用を生み出すということ、同時に給料をどう考えていくかですね。まあ政府は、給料を増額した企業には補助をするということを改めて説明していますけれども、塚田委員なんかこう、見識ございますでしょうか。
塚田委員	先ほど、吉田委員さんの話でありました、商工会へのご相談というのは非常に皆さん期待しているということを我々も耳にします。で、先ほどまあちょっといろんなお話の中でですね、人口が増加しているというお話なんですけど、勤務先は中々変えることはできないと思うんですが、町外の勤務先で町内に住む方が増えているのか、町内の勤務先で町内に住む方が増えているのか、そういったデータっていうのは何か持たれておりますか。 まあ要は、町内が活性化すれば土地の、法人の税金もアップしていくのかなと。そのためにはやっぱりあの、住みよい、町民が暮らしやすい、海田町であるべきだというように

	思いますけど、まあそういったところの、データというものがですね、分かれば非常に今後の戦略も打ちやすいのかなというふうに思います。さっきデータのお話ししましたけど、あの、今我々金融機関がですね、非常に今、ホットな話といいますと、カーボンニュートラルのお話でございまして、やはり世の中の脱炭素に向けて、特にここの海田町というのは、マツダさんの城下町、サプライヤーが非常に大きなところで、マツダさん自体はですね、やっぱり各サプライヤーの皆さんに、どれくらいの数値目標を立てるのか、具体的な話をどんどんされています。で、そういった中で、これらの大きいサプライヤーさんに限らずすべての企業さんに関わるお話だと思うんですけども、そういった観点で、やはり我々がやらなきゃいけないこと、絶対できることというのをですね、やはり今から色々な設備をするのであれば、設備の工夫だったり、ということだったりします。で、そういった中で、海田町さんのところもですね、県と国と連携する中で、海田町さんに相談すれば、そういったそのカーボンニュートラルだったりですね、まあSDGsの話もそうなんでしょうけれども、そういったあの、具体的なご相談窓口等もですね、一つあっていただければですね、非常に皆さん、企業の皆さん助かるのかなと思っております。これはあの当然、商工会の窓口のところですね、連携して我々もやっていきたいなと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。
池本委員長	はい、ありがとうございます。今、カーボンニュートラルのお話が出ましたが、近年、企業の社会貢献活動というのが環境課題になって、新しく重点的な社会的な課題としてのカーボンニュートラルという動きが出てきている。そこに、企業の存在意義というものが、新たに問われることが強調されるようになってきていて、企業がこれまで以上に社会的な責任をどう果たしていくのかということ、社会に発信していくということも踏まえて、そういったような新しい新規事業あるいは新規企業でしようかね。やはりそういったものをこう、念頭に置いた、あるいはそういったことを非常に、主体にするということも、必要になってきている。そういう点にもやはりこう、今後の新たな海田町の魅力のある企業像そういったことも、町民のみなさん、それから商工会のみなさんへ示す、募集するっていうことも必要になってくるんだろうというふうに考えられます。 今、経済分野の話が中心になっておりますけれども、そのほかいかがでしょうか。
中神委員	子どもたちがたくさん増えていて、出生率が1位というのは本当にあの誇らしいことだと思います。保育所の整備事業というのを、とてもあの、よく未来のことまで考えられていて、待機率は0だということで、中々この近辺ではないことではないかなと思って、この海田町、頑張ってくれているんだなというふうにとっても嬉しく思っています。この達成状況の一覧表なんですけれども、すごく頑張っていると思うのに、まあコロナの関係があったということで、未達成、未達成、未達成なんですよ。2年度の実績でということで、未達成は仕方がないと思うんですけど、この中にあの、令和元年度ですね、参考資料で、例えば、令和元年度はこうですよっていうのは、そのことは出せないのかなと思ひまして。と申しますのは、第5次の海田町総合計画は令和元年度が、基準値になっておりまして、結構高い数値っていうんですかね、だからすごく頑張っていると思うんですよ、海田町としては。それなのにここで見ると、なんか、コロナで全部、未達成、未達成、未達成なのかな、というのは令和2年度の実績で、これを判断するのでベストな形になるんでしょうけれども、その他という形でね、ちょっと元気が出るかな、というように思いました。
企画課長	貴重なご意見ありがとうございます。今日ご欠席になられた今川議員からも同じようなご意見をいただいております。今川議員からはコロナで未達成というのは仕方がないという部分も多いんじゃないかということで、まあ、ご提案いただいたのは未達成という文字を使うことは、職員のモチベーションにもかかわるんじゃないかということでご意見をいただいております。あの、今回は計画終了時点ということで、令和2年度の数値ということでださせていただきましたが、今後の公表に当たっては、参考値とさせていただくのか、パーとさせていただくのか。そういったことについては、ちょっとまた、協議をさせていただければと思います。ありがとうございます。
池本委員長	中上委員からコロナの影響がないところでの結果という、私も、コロナの影響があってもそれなりに、できなかったとしても、使われない、代替策があったのだろうと思うんで

	すけど。そういったことを含めて、何らかの成果っていいますと未達成という表現を使うかどうかという話なんですけどね。ほかに何か取組んできたということがわかるという補足資料、そういったものがあつたほうがよろしいかと思います。よろしくお願いします。他に何かございますでしょうか。では天野委員、お願いします。
天野委員	はい。今の件については、おっしゃる通りコロナの影響でできなかった、できなかったというばかりではなくて、やっぱりこういう工夫をしたっていう整理は、絶対私もいるなと思います。その中でですね、例えば、コロナでやってみたからこそ別の面、こういう良い面もあつたっていうことが、ひょっとしたらあるんじゃないかなと。あの説明の中で、一度オンラインの話をされましたけども、そういったことで今まで実は参加できなかった人が、参加できるようになったとか。私が今、広島市立大学にいますから、ちょっと自分のことの例で申し上げますと、えっと、国際交流をやるということで、これは留学生を呼んできて、国際化を、あるいは学生を海外に留学させて、国際感覚を身につけられるというのが基本なんですけど、当然コロナでこれが全くできなくて、いう中で、別の方法で何かならないかというオンラインで海外の学生たちと交流をどんどんやりましょうということを代わりにやった。当然リアルで行き来はできませんでしたが、国際交流の入り口として、興味を持つ学生がかなり増えたというのがですね、で、これはいけるなということで来年度からはですね、入口としてのオンライン交流をもっとやって、もっと興味を持つ学生を増やして実際に行かせるとかね。そういうリアルとオンラインをうまく混ぜてやることで、より効果があるんじゃないかというようなことを実際にやっておりました。だからそういうことがですね、こちら町政においても色々できるのではないかというふうに思います。例えば子育て世帯とか、施策だと、若い、比較的若い方、オンラインとかそういうことに抵抗のない方々が対象になるので、より有効にですね、そういったことが使えることもあるんじゃないかというふうに思いました。参考までにご紹介しました。以上です。
池本委員長	はい、ありがとうございます。コロナの影響の中で、代替策ということを紹介していただきました。色んな分野で、そういったことの取組ができたと思うんですけども、あの、町として何かこう、特徴のある代替策みたいなものは、何かございますでしょうか。
企画部長	色々ご紹介をいただきましたけれども、そういうデジタルを活用したですね、リモートの改良というのはですね、そういう体制を中々海田町では取れてなかったんですけども、そういったことをせざるを得なくなったという状況でございまして、色んな複数の画面をですね、活用しながら、遠方の地域と会合ができるようになったということは、一つの取組かなというふうに思います。で、設備を整備したことで、遠方との会議だけでなくですね、町内の会議でも、例えば複数のデータを一度にですね、見ることができて、比較をしながら検討していく、といったことも一つの成果かなと思います。それと、遠方と会議をするのにですね、例えばこれまでですとメールのやりとりとか電話とかで終わってたんですけどリモートで会議をやりとテレビ電話みたいに会議をやりと気軽にできますので、比較的回数も繰り返し何回でもできるようになっていくというのも、一つのメリットではなかったかなというふうに思います。それとあとは出勤を減らすとかというようなこともですね、世間では言われておりますけど、中々決裁の判を押すためだけに出勤をするとかっていうのもニュースにありますけれども、海田町でも同じような状況でございまして、そこは中々達成できませんでしたが、そういったことが必要なんだよという問題意識を共有いたしまして、そういったことも近いうちに電子決裁みたいなものも取組んでいこうというところで、動き始めたというのも成果といいますか、そういった影響もあつたというところかなと思います。引き続き、コロナが収束してもですね、良いことは、ぜひ進めていきたいと考えております。ありがとうございます。
福祉保健部長	加えまして、子育て支援というところで、どのようなコロナ禍の中で取組をしたかというところで、天野委員に言っていただいたように、オンラインでのおしゃべり広場っていう事業を開始いたしまして、オンラインで子育て相談をしていたり、お母さん同士をつないだりという取組も行っております。また今年度からなんですけれど、子育て家庭へのおむつの支給というところで、3か月と7か月と9か月の時に保護者の方におむつを取りに来ていただいて、そこで困り事とか、相談を受けたりするということで、集いの広場と

	いうところで集えないんだけど、一対一での相談は始めたところで、コロナ禍の中で、いかにあの、子育ての不安を軽減していただくというところに、焦点を置きながら、ネウボラ事業を行っているところでございます。
池本委員長	はい、ありがとうございます。コロナ禍にあっても、役場としても、工夫をして取組んでおられるということをいくつか紹介していただきました。まあ今後とも引き続きですね、どんな状況であっても行政サービスが滞りなく町民のみなさんに提供できるような取組を今後も進めていっていただければと思います。そのほかに、はいどうぞ。
国光委員	今子育ての話がありまして、これはアプリから直接アクセスして、いろんな悩みだったりとか、ご相談できたりすることですね。これはあの、私の身内ではですね、弟のお嫁さんなんですけど通勤族なもので、もう各地結構回るんですね。そうするとポンと子どもを抱えて知らない土地に行き、そこから子育てコミュニティもない友達もないってなってしまうって時に、やっぱりこういう住んでいる町の情報ですとか、子育ての意見交換ができる場所ってというのはすごい求めてるっていうのは言っていたので、すごくあの素晴らしいことだなと思いながら、あと子どもとお家で参加できるたとえば、オンラインのヨガ教室とか、一緒にこうできるように先生とその、出ている方をつないで、子どもと一緒に家でヨガをできるとか、健康づくりにもつながると思いますので、そういうところも、何かいい講師の先生とか、いらっしゃったら来てもらって見るのもいいのかなと思います。
池本委員長	はい、ありがとうございました。
川上委員	あの、海田の公衆衛生を担当しています、川上です。まあみなさんのほうで、コロナの中でできなかった、できなかったと言われているんです。実質私らじゃ、公衆衛生というのは、町民の健康を危険から守ってこういう活動をしています。その中で、コロナの中でこういうことを皆さんに知ってほしいんですけど、実際に、私たちがやっているゴミ出しの問題です。これはね、実はコロナで増えたんです。家におる人が多いから。今海田町で、私たちが取組んでいるゴミ出しの箇所のは630か所あるんです。それから資源ごみの回収箇所が160か所くらいあります。一応これをあの、私たちの推進員が180〜90名近くいますけどね、それがコロナの中でもずっと担当してきた。そういう中で役場の環境センターの協力を得ながら、その中で大きなケガもなく、回収員さんがコロナにかかるということもなく、そういう形で進めてきているということで、逆に言えば子育ても大事ですけど一番基本的なところのね、活動がコロナの中では順調に行っていましたよということが海田町としても取組のいいところじゃないか、いう点でちょっとご披露させていただきました。私ら今度ねこれについては次の問題でもう一言、みどりのカーテンの問題で、カーボンニュートラルの問題をこれと取組んでいく予定にしておりますので、また何かの時間があれば、それはお話をさせてもらえればと思います。以上です。
池本委員長	ありがとうございます。ゴミ回収を一部でやらない自治体もあったりするんですけど、海田町では、滞りなく捨てられたということですけども、このような成果は見受けられたかと思うんですけど、新しいカーボンニュートラルに向けた取組も考えられている。新しい動きを模索するイメージできてるというかあろうかということですけども。
町長	先ほどの商工会の関係もこういった形で、クーポンの事業もですね、ホームページのほうへアクセスして、提供できる経路もございますので、そういったところをしっかりと見ていただきながら、あの、色んな施策を打っています。クーポンもやっています。で、一人に対して全部クーポンを発送するという、この基本をですね、置きながら、一弾二弾、三弾と、今回三弾目を打とうとしておりますのでね、そういったところが、うちの一番最初のコロナのスタートの予防方針に基づいてやっていく。それと、先ほどの紹介があったところのですね、これらも高齢者の方々のポイントをですね、ちょっと説明しておきたいなと。はい、お願いします。
福祉保健部長	海田町におきましてはあの、今年度、来年1月からになりますが、高齢者のいきいき活動ポイントを開始をしますので今準備を進めております。10月から申請を受けさせていただいているんですけど、高齢者の方々、65歳以上の方の約25.6%の方から、申請をいただ

	いて、色んな自治会のほうで説明をさせていただいています。色んな健診を受けていただいたり、あの、子どもたちの見回り活動をしていただいたり、公衛協で活動していただいたり、色々なボランティアをしていただくことで、1回100円のポイントで、上限1万円、年間1万円のポイントを付与するという活動を始めるところでございます。今後もまた各自治会や、町内の各関係団体の皆様方にも説明を行ってまいりますので、ご協力よろしく願いいたします。
池本委員長	はい、ありがとうございます。コロナ化でのこういったクーポン、情報発信が進んでいると。役場にデジタル推進課ですかね、デジタルのセクションができたということがございまして、いかに、そういったデジタルトランスフォーメーションという海田町の取組に何らかのあるいはコロナ禍に関わらずですね、今後の方向性という部分で、ご意見はないでしょうか。
向井委員	はい。今までご紹介いただいたようにコロナ禍においては、会えないっていうところが、会いづらい対面で会話がしづらいという環境においては、デジタルを上手く活用していただいて事業活動の部分にもやっていただく。これは、官民間問わず、あと生活者という立場でも子育て世帯、お母さんも、スマホをよく使われていると思いますけども、必要な情報を得る、あるいは買い物をする。そういったことについても、オンラインツールを使っていくことを、まあ進めていくということかなと思います。これは特別なことというよりは、世の中がそういうふうデジタルで色んなものが提供されていく、変わっていく中で、生活者としてどういうふうに対応していくか、事業者としてどういうふうに対応していくか、行政としてどうやって国に対応していくのかというところを、改めて考えて、デジタルを使うことだけが目的ではないんですけれども、地域の方々が過ごしやすい環境を作っていくときに、どういうふうにやっていくのかということをしっかりと考えて、取組でいくことが大事なというふうに思っています。これについては県のほうでも、色んな取組をご紹介したりですとか、海田町だけで取組むと非効率なものについては、連携して取組ませていただいたりですとか、そういったふうに進めていけたらと思っています。
池本委員長	はい、ありがとうございました。今、コロナ化での施策の評価と、それから子育て、コロナの中でどう取組みが進んでいるかという話が出てきましたけれども。川上委員が先ほど分野で、新しい公衆衛生ですかね、これまでの事業に、新しい環境、広い分野に取組とお話されたわけですけど、何か新しい視点での今後の方向性、改めて議論していただければと思います。
川上委員	新しい取組というよりも、今の社会情勢の中で、私ら公衛協の中で取組んでいこうとしていることが、3つあるんですが、1つは食品ロス。これは真剣に取組んでいこうという形で、取組のPRもやっているんです。それともう1つは海洋プラスチックの問題。これもやっぱり大々的な形で取組んでいこうというようになったんで、色んな出前講座の時期に、正しいごみの出し方という研修を毎年やっているんですけども、その中で、この2つは話を去年から言ってきた。それから、やることというよりは、私たちがやっていきたいっていうのは、あの、健康と環境の問題を特に真剣に考えたいということで、皆さんと一緒にどうやっていったらそれができるかということで、一番悩んでいるのが、人材不足、要するにどういう人で次の人を担うかという、これが一つの課題になっているということです。で、もう1点は先ほど申し上げました、私たち公衛協の中にも一つ下部組織の、地球温暖化対策地域協議会というのがあるんですよ。これは広島県の知事から委嘱して、これは京都議定書ができた時から法律上で定められた推進案。その取り組みとして今、あの、みどりのカーテンマップづくりという形をやらせていただいて、新しく5次計画の中でも目標数値を800から1000に変えていただいたんですけど、今年の実数を調査しましたら830何か所というかたちで、上昇傾向にありますので、これも一つの取組。で、もう1つさっき言いましたように、カーボンニュートラルの、50年を要する、排出量と吸収量を差し引いたものを0にしようという、この取組をどうしていくかというもので、私たちが学校の出前講座をやらせていただいているんですよ。まあその中でも、難しいですけどカーボンニュートラルの取組む問題の形を入れていきたい、とていうような感じで、今、次のステップの活動に向けて、新しくやっていきたいというふうに思います。

池本委員長	ありがとうございます。ごみ、資源、さらに、エネルギー、それから地球、環境問題という取組に展開している。まちづくり全般に関わる、そこに、子どもたちが、その家族、あるいは学校単位で関わっていける。まあ取組が広がっていく可能性も、これまでもそういった取組はあったかと思いますが、町内会、組織として何かこう、活用した専門分野の地域別に展開していくような、何かこう、動きつつというのは、どうでしょうか。
山岡委員	自治会関係、町民の皆さん、一番はやっぱり高齢化の問題です。色んな高齢化による影響が今現在あり、高齢化率高くなっておりまして、今まで色んな話を聞くと、若い人の話ばかりなので、いろんな情報がですね、高齢者の人には中々、いき届かない。スマホにしろ、インターネットにしろ、持っている人は非常に少ないのでそういった方々への情報を流す方法、何かいい方法があるか。例えば大雨による土砂災害、この度のコロナの問題、まだまだ沢山ありますが、高齢者の方は、そういったところでもですね、十二分に自分が動けないというのがありますし、誰に頼んでいいのかわからない、まあ、私らも色んな手を尽くしてはいますけども、5・60代の人のあるいは定年後の人の援助が必要ではないかと思います。取組をしたりしますけど、行事をしながら仲間増やしいったり会話をする機会を増やしたりして、自治体関係のボランティア活動ではありますけど、協力してくれるような人を一人でも二人でも増やしていきたい。そういった事によって高齢者の方々に安心して海田町で暮らせていただける状況をつくっていききたいと思います。
池本委員長	はい、ありがとうございます。これまでの議論が、新しい取組のこう、政策決定や、自治体の立場として、誰一人取り残さないという事が今般取りあげられてきたと思いますが、やはり、若い人が多いとはいえずやはり、高齢者のおかれた状況、あるいはそれだけじゃない、貧困ですとか、人権の問題というところで取り残されてきた人たちがいると思いますね。そういったところも意識して、新しい取組、デジタルを活用した取組が、非常に成果が出てきているところも紹介されてきております。何かそういったところで、世代をつなぐような、仕組みという、改めてこう、今後全体の動きを重要な視点かと思います。
町長	今、高齢者のゴミ出しの関係もですね、この4月から始まったんですが、ゴミ出しの支援事業というのをですね、導入してさらには先ほどの、色んな活動に対して支援していただければ、ポイントを提供しながらそういったところ、一緒にやっていくと同時に、SDGsの考え方をですね、そういったところもうまく解決できればと。色んな合わせ技を持ってですね、やっているのが今の現状です。これは一例ですが、こういった形でですね、どんどん、色んな合わせ技を使いながらですね、みんなが幸せを持てるような、町づくりにしていけないといけないというふうに思っております。
川上委員	はい。ちょっと付け加えたいことがありますけど、先ほどのポイント制という長寿保健課の取組、これが非常に人と人とのつながりができるようになるチャンスじゃないかというふうに思っています。非常に来年期待しております。非常にありがたいことで、みなさん、参加するとかよく聞きますので。ありがとうございます。
町長	まあ色んなご意見を取り入れながら、進めていくということですね。
川上委員	あの、学校教育の関係で教えてほしいんですけどね。第4次計画の不登校の問題が取り上げられていますよね。それで海田西小学校で新しい取組、不登校への取組いうのをやられているような情報が入っていますので、もしその辺が分かれば、分かる範囲での情報を教えていただければと思います。
教育次長	教育次長の森山です。海田西小学校に限らずなんですけれども、校内にですね、いわゆる不登校傾向の子たちまたは学級に上がれない子たちが、あの位置づけるような、部屋をですね、海田西小学校については今年度からなんですけど、それ以外の海田西中学校であったり海田小学校はですね、昨年度から設置をしております。また海田中学校においてもですね、別室登校という形で、いわゆる適応指導教室、横文字ですスペシャルサポートルームという名前を付けてですね、対応しておりますけども、中々学級までというとなかなか難しい子について、担当の先生を一人配置してですね、あの、学校へ少しでも足を運びながら興味のあることから始めていくというふうな取組をですね、ここ数年、重点として、進めているところでございます。

池本委員長	はい、ありがとうございます。あの学校の取組についてでございました。あと、予定された時間が10分少々ということですので、林委員いかがでしょうか。
林委員	過去の取組みも踏まえて新しい動きっていうのをどんなふうに考えて、実際に自分の頭の中で考えてみたんですけど、資料を送っていただいて、未達成の理由っていうのが、コロナっていうのが多かったんで、その中でも、できているところがある。そのところは何だったのかなって思って、まあオンラインでつながるっていうふうなこともしていますし、オンラインでテレワークがいいのかもしれないし、対面だけで、できたできないというものでもないのかな。そのことを考えた時に対面でしかできないことって言ったら、ゴミ出しの時ありますよね。そのところで少し話ができていたとしたら、そこで話もあって関わるのができて、それを大事にできることじゃないかな、対面で。そういう状況の中で会議等をオンラインでやることは学会等でやっぱり多かったんですけど、かえってゆっくりと話ができたとような経験もあったりして、授業なんかもそうですけども、それに関わり、きっかけっていうのをどういうふうに作るのか、先ほどポイントのこともありました。きっかけづくりになっているのかな。そこをちょっと掘り起こしていただければ、未達成なんだけれども、まるっきりできていないわけじゃなくて、できない時にも何か。それから今年はあの、子ども議会もできましたけれど、そういう範囲の中でできることを、もう一度こう、洗い出していただければ良いと。評価でこれどうだったか、じゃなくてその中に、これがこうできたらこういうふうにできる、改善、改良策っていうところ。そのところを少し丁寧に掘り下げないと、難しいのかなというふうに思います。 で、狙いをどうするのかということを、役場の方々が考えておられると思うので、そういうところのアイデアを重ねていくと良いなと感じました。高齢者と、子どもとの出会い、学校教育の中でその枠組みで、やらなきゃいけないこともありますけど、総合的な学習の時間、それから地域の方々にお世話になっておりますので、そういうふうな中での出会いというのを、大事にしていけるといいなと思います。子どもの力を信じて、子どもも主役になるような、形をまず作って考えていくことが、学校教育を圧迫するんじゃないで、そういう話を教育委員会の中では出さないといけないが、なかなか難しいなというのが、正直なところ。良いアイデアがあれば。もう一つ、学校教育の話がありましたけれど、あの、県の社会教育委員の連絡協議会に関わっています。生涯学習審議会ということで、生涯学習っていう点で、あの、社会教育にどう取組んでいくのか、そのところを、なんか新たにやらないといけないってなって、ここ海田町で生活していくのが、学びにつながるっていうところを少しく、アピールして欲しいなと思います。色んな活動そのものが、学びであるっていうことを取り上げていただくと、身構えてやるんじゃないで、生活そのものが、学びにつながると考えてくると面白いかな、それがポイントにつながるであればうれしいなと思います。
池本委員長	ありがとうございます。子どもの将来を見据えた形で。それには普段の生活の中で、様々な活動を色んな団体のみなさんあるいは町民の、それぞれの生活っていう中で、現場に関わって位置づけるだろうと思います。そういったことを通じて、おそらく誰もが取り残されているわけじゃなくて、誰もがそれぞれの地域あるいは、社会の中で繋がっている。中々それを見落としがち、見逃しがちだということも感じるんですけど。大学にいて、あの、中々思うとおりに授業が進められなかった、オンラインに10月から、対面に移って、いわゆるハイブリットっていう形。教室でやりながら、中々来れない学生も、ビデオ会議システムを使って授業をするという、準備するのはすごく大変なんですけれども、二本立てっていうんでしょうかね、あの、教室においても、一対一の関係、対面を重視したと同時に、そこに何らかの形であの、デジタルでも参加できるような仕組みというものを、コロナが大きなきっかけとして提示してくれたんだなという感じがしているところなんですけれどもね。そういった方向性を見据えた形で、今後の、第5次の総合計画の検証をこれから進めていこうと思いますけれども、時間がもう少なくなってきているので、みなさん発言いただいたと思うんですけど、何かこう、今の議論と直接関わりがなくても結構ですので、何かこう、言い残したことなどがありましたら、どうぞご発言していただければと思っています。いかがでしょうか。 よろしいでしょうか。限られた時間でありましたので、中々言い尽くせない部分もあるうかと思います。一旦これで、今日の議論は終わりにしたいと思いますけども、先ほどの

	議題としては、あの、資料１の２ページ目にある総合計画の評価についてですが、コロナの中での評価をどう考えるかということで、その事業の流れの中で施策、事業のアイデアにしても、これまでに生まれてきた新しい動きが展開していくつかの視点が提示されたんだろうなと思います。そういうことで、今日の議論は終了といたします。 続けて事務局から何か、伝達する事項等がありましたら、お願いいたします。
事務局	本日はお忙しい中お集まりいただきまして、また、貴重な意見をいただきまして、ありがとうございます。本日いただいたご意見につきましては、町でとりまとめさせていただき、また、参考にさせていただきながら、今後に生かしていきたいと考えています。以上でございます。
池本委員長	今後とも魅力のあるまちづくりに、皆様是非協力して取組を進めていただければと思います。本日はありがとうございました。